

1:1 オバデヤの幻。【神】である主は、エドムについてこう言われる。——私たちは【主】から知らせを聞いた。使節が国々の間に送られてこう言った、と。「さあ、立ち上がれ。エドムと戦おう」——

1:2 「見よ。わたしはおまえを国々の中で小さい者、ひどく蔑まれる者とする。

1:3 岩の裂け目に住み、高い所を住まいとする者よ。おまえの高慢は、おまえ自身を欺いている。おまえは心の中で言っている。『だれが私を地に引きずり降ろせるのか』と。

1:4 鷲のように高く上っても、星々の間に巣を作っても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。——【主】のことば。

1:5 盗人がおまえのところに來るなら、しかも夜に、荒らす者が來るなら、——いかに、おまえは荒らされることか——彼らは欲しい分だけ盗んで行くではないか。ぶどうを収穫する者がおまえのところに來るなら、彼らは取り残しの実を残さないだろうか。

1:6 ああ、エサウは捜し出され、その秘宝は見つけ出される。

1:7 おまえと同盟を組む者たちがみな、おまえを国境まで送り返し、親しい友がおまえを欺いて征服する。おまえのパンを食べていた者が、おまえの足もとに罫を仕掛ける。こんなおまえに英知はない。

1:8 その日には、——【主】のことば——わたしは、エドムから知恵ある者たちを、エサウの山から英知を消し去らないであろうか。

1:9 テマンよ、おまえの勇士たちは氣をくじかれる。虐殺され、エサウの山から一人残らず断ち切られる。

1:10 おまえの兄弟、ヤコブへの暴虐のために、恥がおまえをおおい、おまえは永遠に断たれる。

1:11 他国人がエルサレムの財宝を奪い去り、外国人がその門に押し入り、エルサレムをくじ引きにして取ったその日、おまえは素知らぬ顔で立っていた。おまえもまた、彼らのうちの一人のようであった。

1:12 おまえは兄弟の災難の日に、それを見ていてはならない。ユダの子らの滅びの日に、彼らのことで喜んではならない。その苦難の日に大口をたたいてはならない。

1:13 おまえは彼らのわざわいの日に、わたしの民の門に入ってはならない。ほかでもないおまえが、彼の破局の日に、そのわざわいを眺めていてはならない。彼の破局の日に、彼らの財宝に手を伸ばしてはならない。

1:14 その逃れる者を断つために、別れ道に立ちふさがってはならない。その苦難の日に、彼らの生き残った者を引き渡してはならない。

主はイスラエルを悩ましたエドムの「暴虐」を忘れません。主は御自身の民の味方だからです。イスラエルが主背いたのは原因であったとしても、それでも主は、イスラエルを愛しておられるのです。

新約においては私たち、主に救われて者が主の民です。私たちもまた主のあわれみを求めることができます。主は敵をいつまでも放っておかれませんが、主に頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

